

## 知事広聴：平太さんと語ろう

## 発言要旨

日時：平成22年6月16日（水）13:30～15:40

会場：引佐健康文化センター

1 出席者（男性4名、女性4名 計8名）

2 発言意見

No	項 目	県関係部局
1	男女共同参画の推進 高齢者の見守りボランティア活動 災害ボランティア組織の拡充	くらし・環境部 男女共同参画課 健康福祉部 長寿政策課 危機管理部 危機情報課、危機対策課
2	男女共同参画の推進	くらし・環境部 男女共同参画課
3	地域の力 ごみの減量に向けた取組	経営管理部 自治行政課 くらし・環境部 廃棄物リサイクル課
4	県と政令指定都市のすみ分け	経済産業部 研究調整課
5	工業団地の造成、耕作放棄地の解消	経済産業部 農業振興課
6	天浜線の魅力をアップし、地域の財産に	文化・観光部 交通政策課
7	エコミュージアムと地域振興	企画広報部 地域政策課 教育委員会 文化財保護課
8	地域型旅行商品開発による旅の産直	文化・観光部 観光政策課

## 3 意見交換内容

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>1 男女共同参画の推進、高齢者の見守りボランティア活動、災害ボランティア組織の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 45年前に引佐に来たとき、緑が多く、また、史跡、旧跡が非常に多く感動した。知事がよく使っている「住んでよし、訪ねてよし」と、全くそのとおりの地域である。</li> <li>・ 男女共同参画について、一般社会では女性が非常に目覚ましい活動をしているにもかかわらず、意思決定の場に女性枠を設けないと、なかなか参画できないのが現状である。これは長い歴史の中で培われてきた意識の問題で、一朝一夕に変えることは大変難しい。しかし、スウェーデンでは法律により女性の社会進出が進み、企業のトップの45%が女性であるという記事を見た。法律の力というのは非常にすごいと感じた。</li> <li>・ クリントン政権で国防次官補を務めたジョセフ・ナイ氏の『リーダー論』に『現代のリーダーには、ネットワークを駆使し、共同参加型の協調性を育てる能力が求められている。非序列型、上下の関係なく、人間関係を重視する女性特有の能力が評価されている。』と書いてあった。</li> <li>・ 人類の半分は女性であり、女性の隠れた能力を生かさないのは、非常にもったいない。行政には、女性枠を設けなくても男女ともに共同参画ができて、暮らしやすい社会が形成できるまで、政策の面での力添えをお願いしたい。</li> <li>・ 介護保険制度が発足してから10年になるが、少子高齢化のスピードが非常に早いので、この制度が続けられるのか、あるいは負担額が増加し、自分たちが負担に耐えられなくなるのではないのかと、懸念している。</li> <li>・ 身の回りのちょっとした手伝い、買い物、見守りをするボランティアを始めて21年になる。在宅で90歳過ぎまで過ごされた一人暮らしの高齢者に接してきた。その中で自分一人ではとても解決できない問題が多くあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意思決定の場面に女性を登用しなくてはいけないとのことだったが、私もそのとおりだと思う。このことは好き嫌いにかかわらずそうなるので、私はそれを促進するのがいいと思っている</li> <li>・ 自分が学生のころは大学に行くのは、10人に1人ぐらいで特に女性の場合はせいぜい短大の時代であり、しかも世の中は学歴社会であった。だから、男性が、家庭においても、社会においても中心であった。</li> <li>・ ところが、次第に女性の大学進学が増えて、平成元年から男女で大学進学率が変わらなくなった。そのころの学生が今40歳であり、20年後には60歳になる。そうすると会社でも女性が人事部長、副社長、社長ということに必ずなる。だから余り心配はしていない。</li> <li>・ ボランティアを組織して、県のいろいろな勉強会に参加し、災害時の知識を身につけた人たちが、今度は地域で自ら後輩たちに教えていくというようにしていくと、地域のことは地域でやろうということになり、地域コミュニティが大切ということになっていく。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最近、テレビで県の社協が中心になり、ごみ出し、買い物、見守りを行うグループを組織するシステムをつくり、在宅で高齢者を支えているという例が出ていた。現在県でおよそ1万人の方が特養老人ホームに入れず待機をしており、その中で緊急に入所すべき人が1,488人いると聞いた。県社協のようなシステムづくりができれば、施設整備の追い付かない分を少しでも補えるのではないか</li> <li>・ 東海、東南海、南海地震の三つの地震が連動すると、本県では8,100人の死者が出て、家屋全壊が23万棟あると聞いている。</li> <li>・ 災害ボランティアコーディネーターの養成講座を13年ぐらい前に受けた。自分たちは浜松市全域で災害ボランティアの組織をつくっているが、まだ全域に広がっていない。県民一人一人が減災意識を持って、災害に備えるということが非常に大切だと思う。</li> <li>・ 来年から災害ボランティアコーディネーターの養成講座がなくなると聞いた。ボランティアを一人でも増やしていくために、この講座はできるだけ継続して欲しい。</li> <li>・ この地域は東海地震が起きたときに、非常に多くの被害が出ると言われている。毎年行う防災訓練を実際に役に立つ実践的なものにして欲しい。</li> </ul>	
<p><b>2 男女共同参画の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浜松市男女共同参画推進センターで講座の企画、啓発事業、事務処理等を行っている。</li> <li>・ 男女共同参画というのは意識を変えることと言われているが、性別によって役割を決めつけてしまう固定的な性別役割分担意識は解消されていない。</li> <li>・ 消防団員が減少して困っているとか、自治会活動が高齢化しているという意見をよく聞くが、そこに男女共同参画の視点を入れれば、少し違った展開が得られるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性が社会進出をしてきた結果、仕事と家庭の幸福を両立させるにはどうしたらいいか非常に苦労している。産みやすい、育てやすい環境を、会社も、行政も政策的につくっていかないといけない。そこには確かに意識の問題がある。</li> <li>・ 女性が一生の間に何人の子供を産むかというのを、合計特殊出生率と言うが、これが2.07人であれば人口は減らないが、現在本県は1.43、浜松は1.48なので人口は減っていく。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男女共同参画社会の推進と少子化対策として子育て期の社員の短期間労働、女性も男性も残業しない、4時くらいで帰宅できる、そして、保育所の整備が大きな効果があると思う。浜松市でも、子育て中の若い人は少し短い勤務時間にしようとする企業が出てきた。良い人材を吸収し、良い人材が育つ企業。それがこれからの企業戦略としても大切なことである。</li> <li>・ 男女共同参画と言うのは人権の問題である。地域コミュニティが疎遠になってきているが、思いやりや、自分を大切にすることから相手の人を大切に思う自尊感情を充満させる地域コミュニティの育成も男女共同参画の大きな取り組みとなる。</li> <li>・ 計画や法律ができて、有効に活用、実施されないと効果は期待できない。センターも努力するので、行政、企業や県民の皆様と共同して、静岡県版理想郷「ふじのくに」の実現につなげていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口が減ると活力がなくなる。地域を挙げて、若いお母さんが安心して子供を産み、育てられるようにしていく必要がある。少子化は、地域の力を下げていくので、本気で取り組む必要がある。</li> <li>・ 2～3人は産みたい、子供が欲しいと若い女の子や男の子が思う気持ちをまずはこの引佐から、細江から、三ヶ日から、この北区からつくっていきましょう。</li> <li>・ この地域には、三ヶ日ミカン、ホオヅキ、景色、横尾の歌舞伎など良い材料には事欠かない。元気であるということは、子供を育てることなので、本気でやらなくてはいけない。</li> <li>・ 例えばインフルエンザで保育園が閉鎖したらどこに預けるか。自分の旦那のお母さんに預けると安心である。自分のお母さんやおばさんに預けるとさらに安心である。要するに地域で母親を経験している方に預ければ、安心である。場合によっては保育園の若い保育士に世話してもらいよりも安心で、さらに愛情も注いでもらえるということがある。</li> </ul>
<p>3 地域の力、ごみの減量に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧三ヶ日町全域を対象に、性別に関係なく賛同する方を活動協力委員とし活動をしている。安心で安全なまちづくりのためにお互いに学び合い、環境を守る活動や湖をきれいにする活動、防災対策の活動などを中心として、ボランティアの心、奉仕の心で協力し合い活動している。</li> <li>・ 特に可燃ごみを減らす活動に重点を置き、家庭から再生可能な良質な古紙を分別回収したり、今までごみとして燃やしていた名刺大の小さく上質な雑紙も回収して、トイレットペーパーにリサイクルする活動をしている。</li> <li>・ 活動していて、北区はとてやる気のある元気な地域だと思う。</li> <li>・ 自治会長会や、地区の総会で分別の説明会をしたときに、これまではごみは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本人はこの小さな島国の中で270年間も鎖国をし、他国を侵略せず、限りある地域資源をもったいない、もったいない、とやっていた国である。だからまだもったいないという気持ちを我々は持っていると思う。</li> <li>・ この気持ちが具体的にはごみを分別しましょう。結果的にはそれがごみ処理場の大きなコストの削減につながるということで、この試みは本当に大事である。まず明日からできることである。</li> <li>・ どこにどういうふうにしたら自分たちの仕事がきっちりできるかというデータを欲しいと言われた。私はもう全部公開していいと思っている</li> <li>・ 市民の方々に対して役に立つ情報を何となく隠すなんていうことはとんで</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>お母さんに任せれば良いという感じであったが、今は男の方も食い入るように注目し聞いてくれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浜松市では平成 20 年度には燃やすごみと資源回収の排出で 77 億円もの経費がかかっている。しかし、自分たちが出すごみを減らすことで経費が減り、その分の税金がほかの事業に回ると考えた。実際に燃やすごみが減ったと聞いたときはうれしかった。</li> <li>・ 最近製紙工場の方から、良いトイレットペーパーをつくるために、質の良くない雑紙は回収して欲しくないと言われ、そのことを説明会で話した。文句が出ると思っていたが、「じゃどういふものをこれから入れりゃいいだね」と聞かれ、やる気あるなと感じた。長い目で見てくれる人々がいる。北区は根気のある地域と私は期待を持っている。</li> <li>・ また、ミカンの里祭り実行委員や、「ステキみっかび発信プロジェクト」という、地域を元気にするいろいろな地域活動があるが、その中で 30 代と思われるお父さんの実行委員から、「私たちは自分の子供たちに、親父はなあ、まちづくりのためにこんなことしたんだって自信を持って言えるような、そんな活動をしたんだよ、地域を元気にしたいだよ。」という声を聞いた。こういうやる気、あきらめない気、これが自分たちの足元の地域の力であり男性も女性も共同で、地元の地道な活動をしていく必要があると思う。こういう力が集まって市をつくり、そして住みよい県につながっていくと感じている。</li> <li>・ 地域の人たちに説明するとき、こういうことをするとこのくらいのお金が生まれる、税金が節約できるというしっかりとしたデータを行政から提供して欲しい。</li> <li>・ このようなグループの活動に対する若い人の消極的な意見を聞き不安を感じるが、自分たちが市民の先輩としてしっかり受けとめ、これからの活動を考えていかなければいけないと思っている。</li> </ul>	<p>もない話である。ごみに関わること、どういうふうになれば、市のごみにかかわるコストが削減できるかと取り組みたいと思っている人がいるなら、その情報は思い切って差し出さなければいけない。</p>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>4 県と政令指定都市のすみ分け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県と政令市の関係について心配している。地元の方は静岡県民であり、浜松市民であるので、ぜひ地域の発展、市民・県民の幸せを第一に考えて、行政を行って欲しい。政令市だから何でもどうぞとか、県と対等ですなどと言わずに、一生懸命やって欲しい。</li> <li>・ 例えば私が関わっているミカンや畜産では、政令市といっても、調査・研究や、新技術の波及については、専門職を配置して、そのことに専念させることができない。特にこの浜名湖北部地域においては、まだまだ問題がたくさんあるので、そういうところでぜひ協力をして欲しい。</li> <li>・ 生活の部分では、猪鼻湖を含む浜名湖の環境浄化という問題もある。浜名湖は県管理の都田川水系であり、浜名湖県立公園にも指定されている。県が現状より一歩も二歩も前へ出て、この環境浄化、自然保護に努力をして欲しい。</li> <li>・ 何年か前に、長野県の諏訪湖の浄化の視察に行ったが、そこでは県が自ら諏訪湖に事業所をつくり、県の職員が張り付いて一生懸命やっていた。長野ではすばらしい成果を上げている。ぜひ静岡県も今よりも一歩も二歩も前へ出て、地元でもたくさんの方々が頑張っているのだから、その人とともに汗を流して欲しい。</li> </ul> <p>新聞によると県も事業仕分けをやるそうだが、行政は企業のように効率、非効率、投資効果が云々などという尺度ではかるのみでなく、県は県の仕事を、政令市は政令市の仕事をちゃんとすみ分けて、私たちのために頑張ってもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧引佐郡に県立高校が三つあり、この統廃合が27年を目途に大筋が決まったようである。それぞれの高校は経緯があって開校したもので、地元で愛着があり、一生懸命育ててきた高校がなくなるというのは非常に残念である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県と市がそれぞれすみ分けるのと同時に、協働して地域の住民の幸せのためにできる限りのこととして欲しいとのことだが、自分はいかにして住民、県民の方々に役に立つかという観点でやっている。</li> <li>・ 政令市との意思疎通をしっかりと取る必要があるが、浜松市長とは十分に取れている。市長からは中心市街地の問題に対応しており、北区・天竜区への対応は難しいと聞いている。なのでその地域の課題の対応をやらせて欲しい。できる限りのことは全部するとして、すみ分けている。</li> <li>・ 具体的に言ってもらえれば、即電話で解決するということであり、基本的に協働関係ができている。</li> <li>・ 政令市と県は対等であるが、協力してやっている。</li> <li>・ 皆さんも政令市、浜松市と県で食い違いがあれば教えて欲しい、誤解は解くようにし、問題は解決するように、すぐ動きたい。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>少子化の波には逆らえないので仕方がないが、耐震化の終わった施設については、地元では大変魅力を感じている。三ヶ日に県立体育館があっても良いと思う。一括で片付けるとか、県のものだとか言わずに、地域の幸せのためにいろいろな方と相談して、骨を折り、高校はなくなったけど良かったよと明るく言えるような終わり方をしたい。</p>	
<p>5 工業団地の造成、耕作放棄地の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引佐町も少子化や高齢化が深刻となり、幼稚園や小学校の統合に廃校、若い人は働く場所がないとか、買い物に不便だという理由などで、人々が町から出ていってしまう状況である。出ていってしまった人たちに戻ってきてもらいまたこの町に住んでくれる人が増えてくれれば良いと思う。</li> <li>・ 現在豊橋から通る 23 号バイパス、第 1・第 2 東名自動車道、三遠南信自動車道が整備されている。豊橋、飯田、浜松という大きいトライアングルと、新城、飯田、引佐町も入れた北遠の小さなトライアングルの真ん中に三遠南信道が通る形になる。過疎化などで課題のあるこの地域を愛知県、長野県と連携して三遠南信道を利用した日本一の工業団地をつくってはどうか。</li> <li>・ 私は主人と建設業を営んでいるが、公共事業などの削減で、将来の企業経営に不安を感じている。そこで 4 月から企業の農業参入として、耕作放棄地に目を向け、引佐町の地域内での生産・加工・販売を視野に耕作放棄地の解消、雇用創出や後継者問題の解決にもつなげたいと考えている。</li> <li>・ 日本の食糧自給率が、カロリーベースで平成 19 年度は 40%、耕地面積が国土の 12% にすぎないようである。この数字を少しでも上げていくために、そして私たちを取り囲む環境を良好に保つためにも、耕作放棄地の解消を進めていくことは大変重要だと思っている。知事としてはこの耕作放棄地の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東名自動車道が現在通っており、第 2 東名自動車道が引佐から御殿場まで、あと 1～2 年で供用開始となる。しかし、これは横(東西)の線であり、縦(南北)に通さなくてはならない。三遠南信自動車道はその一つである。ほかに縦の道路は中部横断自動車道、伊豆縦貫自動車道があるが、一番可能性が高いのが三遠南信自動車道である。</li> <li>・ 飯田には 15 年から 16 年後にはリニア新幹線が通り、駅ができる。</li> <li>・ リニア新幹線の駅となる飯田から水窪や天竜は近く、名古屋や東京に近い場所となり、浜松と結ぶ道も作られるであろう。</li> <li>・ 昔から東三河、遠州、南信州は豊川や天竜川と一緒に水系であり、昔からいろんな街道や道筋があった所であり、この重要性は国道について勉強した人はすぐにわかる。だからこれは結ばないといけない。日本で一番速いリニア新幹線と、東海道という大幹線を縦で結ぶというのは必然になる。</li> <li>・ 工業団地は、こちらが誘致していくというより、物流の拠点があると思ったら自然に入ってくるものである。だから余り心配していないが、10 年、15 年後をきっちり頭に入れながら地域計画を考える必要がある。</li> <li>・ 耕作放棄地は、国全体で 7～8% あるが、本県だけでその 5 分の 1、1 万 2,000 ha ぐらいある。県では 4 年間ぐらいかけて 5,000ha 解消するように進めている。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>解消にどのように取り組むか、具体的に教えて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引佐町、そして北区で、知事が言っている「住んでよし、訪れてよし、産んでよし、育ててよし、学んでよし、働いてよし」の地域づくりをいろんな世代で頑張っていることを忘れないで欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済はまたいつ厳しくなるか分からない。何かの問題があり海外市場で物が売れなくなると、従業員は解雇されてしまう。従業員は給料がないと借金が払えない、食べられないということになる。すると、生命保険を得るために命を絶つ人が出てくる。これをなくさなければならない。</li> <li>少なくとも家に帰ったら食べるものはあるということが大事である。</li> <li>趣味で野菜などを栽培していれば、季節になれば食べきれないほどの実になる。</li> <li>そのためには、家と庭が一体でないといけない。</li> <li>今の農業生産は土地を所有して耕作しているが、私は借りてやればいいと思う。借地でもいいから、家・庭一体の住まい方が安心の元になる。</li> <li>家も法律を改正し、定期借家、定期借地で100年の契約を結べるようにすれば返済・支払いに多額の財産を注ぎ込む必要はなくなる。不在地主から県や、JAが土地を借りて、それを又貸しすれば良い。地主にとっては、地代が入り、借り手は立派な組織で、土地は定期借地で100年後には確実に返ってくる。そんな三方良しとなるシステムを考えている。それが、安心につながる。庭が広くなり暮らし空間2倍の生活空間倍増になる。日本はもともと縁側に座って、庭を眺め、梅がほころんだとか、藤の季節になったという話をするような、文化を育ててきたと思う。</li> </ul>



出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>6 天浜線の魅力をアップし、地域の財産に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日には次の4点について行政の立場とともに、美、そしてまちづくりという観点で知事の意見を聞きたい。①天浜線を守り育てていくという姿勢で取り組んでいくことの大切さ。②沿線の活性化という観点から駅を核としたコミュニケーションの持ち方。③里山景観を守る。④浜松市政が来年度100周年を迎えるにあたり、交通公園に展示されている蒸気機関車を扇型車庫の中に納めて、本物の鉄道博物館をつくる。</li> <li>・ 遠州地方の自然はすばらしく美しい山々や清らかな川、表情豊かな浜名湖がある。そのパノラマの中を走るディーゼルカーが、愛すべき天竜浜名湖鉄道、愛称天浜線で、のどかな風景の中を住民の足として、また走る談話室として活躍している。</li> <li>・ 天浜線は全長67.7km、37駅でその中には京都、奈良にも匹敵するようなすばらしいものがたくさんある。</li> <li>・ 例えば、初山宝林寺は、中国様式で国の重要文化財、岩水寺も1300年前、小国神社は1400年前に建てられ、掛川城もある。また、特に引佐では2億5000万年前にできた東海地方最大級の観光鍾乳洞竜ヶ岩洞、全国に3カ所しかないくらいのトキワマンサクの群生地、1500品種、100万株の花植えをしている加茂花菖蒲園があり一口に言うと、屋根のない博物館、癒しの里と言えるのではないかと。天浜線は、北区における東西軸の要である。</li> <li>・ 過日、地域の貴重な財産である天竜浜名湖鉄道の維持・発展の支援、地域の魅力を再認識しさらに磨き上げる、活力ある地域づくりの3点を目的に、天浜線サポーターズクラブが生まれた。</li> <li>・ 天浜線を題材にしたミステリー小説が連載されたり、映画「書道ガールズ」のロケ地になるなど最近もいろいろと天浜線にまつわる話題があり、注目</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天浜線を活用することが、この地域の活性化につながると確信している。</li> <li>・ 鹿児島に新幹線が開通する。その旧来の鹿児島線にオレンジ鉄道という名の第三セクターで営業している鉄道があり、その社長と天浜線の社長が意気投合し、お互いの良さを発見し合おうということになった。天浜線はもはや静岡県だけではなく、鹿児島でも知られるようになったのである。天浜線の無人駅に花壇をつくり、蕎麦屋ができ、地域のコミュニティの建物ができたり、きれいに掃除をしたりして、駅がみんなのものになっている。また、無人駅なので、天浜線と乗降する地域の人々の間に信頼関係ができているということですから素晴らしい。コミュニティづくりの核になる。</li> <li>・ 天浜線が走っているところは、里山という言葉がぴったりあてはまる場所が多い。里山の理想形がここある。するとここに住みたいと思う人が出てくるのではないかと思う。</li> <li>・ 天竜二俣駅の阿蔵山や船明に定期借地、定期借家で家・庭一体の住まいが提供できる。また、仮にそこに高校ができれば、天竜杉を使い、高校生、実習生、あるいは新人の方が家をつくれればいい。そうして地域が動いていく。天竜浜名湖鉄道にはいろいろな可能性がある。</li> <li>・ 鉄道博物館、SLを走らせるという話も、夢は決してあきらめないで欲しい。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>を集めつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SLをもう一度復活させたいという思いのもとに取り組んでいるが、天浜線がなくなってしまうとは元も子もない。天浜線の経営が安定し、将来発展をさせていくため、二俣線の蒸気機関車をぜひ扇型車庫に納め、全線文化財化の花を添え、天浜線の魅力をアップし、地域の一つの財産とさせていきたい。</li> <li>・ 市民の立場でできることはやり、行政の応援を仰いで、地域を守っていくという姿勢で取り組みたい。天浜線を守り発展させることが地域の自信と誇りにもなり、同時に外から来てもらえる環境を充実させるよう取り組んでいきたい。</li> </ul>	
<p>7 エコミュージアムと地域振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最近第一次産業、第二次産業、第三次産業を足して第六次産業というキーワードで地域振興を見るという発想がある。</li> <li>・ この会場の近くに、中規模酪農を営んでいる牧場がある。絞りたての新鮮な牛乳が飲め、それを加工したおいしいソフトクリームを食べられ、子牛と触れ合うこともできる。それ見て、これは第六次産業の形であり、紛れもなく地産地消の形がそこにあると思った。</li> <li>・ しかし、この地域は産業のくくりではとらえ切れないぐらい多種多彩な地域資源が存在しており、宝石になり得る原石が、埋もれた感じでたくさんある。その自然、歴史、文化、産業に関わる多彩な地域資源を有機的に結びつけて、地域振興に生かしたいということである。いろいろ考えたが、やはり地域まるごと博物館、エコミュージアムという見立てがこの地域に最も適していると思う。</li> <li>・ この近くにある竜ヶ石山をまるごと全山博物館にできないかと活動をしている。359mの山頂からは浜松市内、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たくさんの小字の名称が残っていて、それにかかわる歴史、文化、伝統を掘り起こして誇りに思っておられる。そして竜ヶ岩洞がよく知られるようになったのも、小野寺さんのいろいろな活躍によるものと思っている。その土地を愛し、本当にきれいなところだと思われるようにしたい。地域全体がミュージアムだという考え方はすばらしい。</li> <li>・ 富士山自体が、ミュージアムみたいなものである。これは人がつくろうと思っても、どんなにお金をかけてもつukれない。人がどんなにお金をかけてもつukれないもの、それが財産である。</li> <li>・ 地域資源をきれいに、人間の知恵と技術で、人が見やすいように、楽しみやすいようにしたいとおっしゃっている。県のモデルをこの地域でつくると言う。今話を聞いて、すぐにでも行きたいくらい魅力的な提案である。人が生活しているその生活、そこでいろいろなお仕事されている方、それ自体が見られるに値するという考え方である。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>太平洋、晴れていれば富士山まで一望でき、180度の大パノラマが広がる。また、中腹は石灰岩のカルスト地形で、浜松新自然百選に選ばれた奇岩群があり、さらに降ると、同じく浜松新自然百選に選ばれた鍾乳洞がある。ここにはミニジオパークになる要素が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ また、3年前から有志で40～50年前に耕作放棄された棚田の復元を行っている。30枚の棚田の復元に成功し、先日田植えを行った。</li> <li>・ 集落には84の興味深い小字地名が残っており、それが全部自分にとっては貴重な地域資源に思える。</li> <li>・ 全山まるごと博物館にするために、地域資源を磨き上げていかなければと感じる。この原石を宝石に磨き上げる作業が非常に大変で、それなりの活動資金も確保しなければいけないが、すごくやりがいがある。</li> <li>・ それは、このような小さな地域のミニエコミュージアムの成功の集合体が県のかかげる「全県まるごと博物館」につながるわけで、裏を返せば「全県まるごと博物館」も、地域の小さな個々のエコミュージアムの成功にかかっていると思うからである。</li> <li>・ 富士山の裾野を浜名湖の北の方まで広げて、「全県まるごと博物館」のサテライトミュージアムという形で地域資源の活用の推進と交流人口の拡大を図るという戦略を提案する。</li> </ul>	
<p>8 地域型旅行商品開発による旅の産直</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奥浜名湖の観光資源は表向き自然、歴史、伝統文化であるが、地域観光の本質としては、自分の住んでいるところを旅行者から褒められるとうれしいと感じる繰り返しが次々と新しい観光を生み出す。言い換えると、地域をつくりたいというモチベーションこそ地域づくりのキーワードと言える。</li> <li>・ 地域ツーリズムを実践するに当たっては、地域に対する高い志を持ちたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「旅の産直」という言葉で言われたが、普段そのものの生活それ自体が観光資源になるというのが一番いいというわけで、これは究極である。</li> <li>・ 普段の生活それ自体をどのようにしたら観光資源として生かせるか。基本的な考え方がいい。普段着それ自体が観光資源である。</li> <li>・ 何も無いと言いかねないところが、実は人から見ると「いいところですね」</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>とっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域型の旅行商品は満足度が高いが、これからの旅行商品と言われている割に、市場に対してすべてミスマッチを起している。これまでの旅行商品は消費者に有名観光地の一番良いイメージを提案するもので、今までは大変売れていた。</li> <li>・ 自分たちが今取り組んでいるのは着地型の旅行商品で、消費者に日常生活感や地域力を提案している。ただしこの着地型旅行商品では、既存の販路では売れない。自分たちでどうやっていくか考えなければいけない。</li> <li>・ 地域型旅行商品の効果は、基本的に地域が直接消費者ニーズをとらえて、地域資源の掘り起こしから旅行サービスの提供まで、自分たちで自己完結が可能となる点である。</li> <li>・ 地域型旅行商品の考え方を使い、近隣の地域と共通性を持つと、西部地域で「旅の産直」が実現する。さらに中部地域、東部・伊豆地域においても水平展開できると、一気に地域型の旅行商品ブランド「静岡旅の産直」を立ち上げることができる。本県の特徴は交通アクセスの多様性、都市圏マーケットの均一性、自身に370万人のマーケットを持っている点である。これからの地域型旅行商品の推進に大きなポテンシャルが期待できると思う。</li> </ul>	<p>と思われる。その感覚がわかるようになるにはほかの地域を見る必要がある。「旅の産直」を本当に成功させるためには、御婦人の方が特に中心になって、見に行く必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えば世界で一番美しい普段着の生活をしているところ。歴史があり、かつ観光として大勢の人が行っているヨーロッパでは、具体的には、イギリスでは中世のまちなかに来たかと思われるようなコッツウォルズ、きれいな生活景観があるだけの湖水地方、イタリアのトスカーナ地域、フランスのプロバンス地域になるが、そこには単に普段の生活があるだけで何のイベントもない。そこには本当にいいところに来て、心が癒せる。二人で人生を語れる、一人旅にも良い。自分に出会える場所です。それがここにつくれる。</li> <li>・ そのためには自分たちの視野を広げないといけないので、思い切って現地に行くことが必要である。そしてそれを自分の言葉で語り、その語り口も勉強する。どうすれば、そういうものを上手に取り入れられるか考える。</li> <li>・ 中国でも最後は、きれいな水、せせらぎがあって、桃の花が咲いていて、ニワトリが鳴き、犬が鳴いている桃源郷が理想郷であると言っている。</li> <li>・ 家でゆっくりしたい。緑がある、ミカンの花が咲く、きれいな実も、花もある。きれいな水が流れている。そして都会も近いし、便利な電気製品もある。田舎でありながら都会的な便利なものもある。気持ちを楽しんで泊まることができる。まさにエコミュージアム、まるごとミュージアムである。人が来てわざわざ特別なことをせずに、自然体でおもてなしができる。そういう素材がここにある。長い歴史、良いアイデアを出しながら、面的にこれを広げる。それには核が必要で竜ヶ岩洞の近辺が核になるのではないか。</li> <li>・ この原石がジュエリーになる日は近いと思う。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 私は京都で生まれ、東京で仕事をし、日本各地をめぐり、20代でイギリスに渡って、ヨーロッパを見、アメリカを見、あちらこちらを見て、ここがいいと思っている。ふじのくに日本、それ自体の自然景観が財産で、それ自体が庭である。その中のさらに一番良いところがこの静岡県である。日本全体がきれいであるが、その一番のエッセンスがここにある。</li><li>・ そのためには男女共同参画じゃないといけない、大地を大事にする農業、観光が結びつかねばならない。</li><li>・ 今日は老若男女一緒にやっていくこと、行政がしっかりそれを手助けすること、インフラ整備がとても大事であること、そうした中で人を引き付けるようなものがここにあるということを、最後の3人の方々の話で聞いた。あとは行動あるのみである。</li></ul>